

「I am with you always, to the very end of the age.」

マタイ28:19~20 Iペテロ5:1~11

■ キリストは、私たちの罪のために死なれた。

マタイ 28 章 18 ~ 20 節はイエス様が天に昇られる前に弟子達に語られた約束です。私たちはこの約束をどの様にして受け取る事が出来るでしょうか？

キリストが私の罪のために死なれたと言われていたが、自分にそれ程の罪があると思えない人もいるかも知れません。私たちには一生かかっても払いきれない債務証書がある事を知っているのでしょうか？自分に債務(罪)がある事を認められるのでしょうか？

その負債がイエス様の十字架は私の罪のためだと心からアメンと言えるでしょうか？

コロ 2:13, 14 私たちを責め立てている債務証書をむこうにされたから

■ 葬られた

墓に入る=イエス様の人生の終わりを意味します。イエス様はこの地上に誕生され、荒野で悪魔の誘惑を受けてキリストとしての人生が始まりました。十字架はイエス様の人生で一番の恥でした。その十字架の上でイエス様は「完了した(テテレスタイ)」と語りました。この「テテレスタイ」とは当時の商習慣で支払いが完了したと言う意味でした。そのため周囲の人達にはこの言葉の意味が良くわかりました。「罪の債務の支払いは完了した」という意味です。

イエス様が亡くなって墓に葬られるまでの時間は約 1 時間と考えられており、とても短かった事が想像されます。とても煩雑な中で愛する人にくっつきと見送られるのでもなく寂しく葬られたのでした。イエス様を十字架からおろして墓に葬ったのはアリマタヤのヨセフとニコデモでした。彼らはイエスの弟子である事を隠していましたが、十字架で命を捨てたイエス様のために勇気を出して総督ピラトに遺体の引き渡しを申し出ました。アリマタヤのヨセフとニコデモは裕福であり、イエスを信じるものだと周囲に知られたら自分たちが不利になるかもしれませんでした。しかし、彼らは実行しました。イエスはヨセフが自分の為によく用意した墓に葬られました。それは当時では素晴らしい立派なお墓でした。週の初めの日にマグダラのマリヤ達は雑に葬られたイエス様の遺体に香油を塗ろうと、朝早く出かけて行きました。この時まで彼らはイエスの死を疑っていませんでした。

しかし・・・この時すでに復活の予感があった。
『彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。』(イザヤ 53:9)
当時十字架にかかったものはそのまま放置されるのが慣習でした。放置された間、鳥につつかれ、腐敗が進み、見るも無残な姿になるはずでしたが、イエスの遺体を葬ることをピラトは赦しています。そこに復活の兆しがあるのです。

そしてこの事も、遠い旧約時代に預言されていたことは、まぎれもない事実であり聖書という書物の一貫性に驚くばかりです。

■ 三日目に甦られた。

復活は嘘ではないかと言う人がいます。しかし、復活が真実である証拠があります。まず復活の最初の目撃者が女たちとなっています。当時女たちは人数に数えられていませんでした。それなのに聖書に記されていると言う事は、その通りの事が起こった事を意味します。

復活の意味

- ①この復活によってイエス様が神の子である事が証明されました。(ロマ 1:4)
- ②イエスを信じる事で義と認められる事が保証されました。(ロマ 4:24, 25)
- ③信者の復活が保証されました。(IIコリ 4:14)
- ④奉仕(神様に任された全て)の力が保証されました。(エペ 1:17~21)
これらのことは神様からのチャレンジに挑戦することで体験出来ます。これらのことをアメンと受け止められるなら王家の子どもとなれます。

■ 王家の子どもがするべき事 (Iペテロ 5:1~11)

~自分からすすんで~

- ①神の羊の群れを牧しなさい。
- ②群れの模範となりなさい。(今遣わされているところ、任されているところで)
- ③若い人達よ、長老達に従いなさい。(相手によらず立てられたリーダーに従う)
- ④互いに謙遜を身につけなさい。(人の失敗を指摘しない)
- ⑤神の力強い御手の下にへりくだりましょう。(神がちょうど良いときに高くしてください)

■ 伏えた蹴る獅子が妨害してる

私たちが神様に従おうとすると、それを邪魔する力が働きます。それは聖書にも書かれてあります。

『身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。』

堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。』(Iペテロの手紙 5:8~9)

私達はもし、神様が示して下さったことだと思ふことがあるなら、それを後回しにしたり何もしないで放置するようなことをしてはいけません。いつも私たちを落としたいようにほえたける獅子のように歩き回っている者がいるからです。私達は身を慎み目を覚まして祈ることが大切です。それをおろそかにするならば、私たちの心に不安やマイナスな言葉が巡るようになります。するべきことをしなからそのような状態になっているのに私達は往々にして「自分はやっぱりだめだ」「自分なんかいない方がよい」など、悪魔に誘導されて、神様の道とは真逆の方向にその足を進めてしまうのです。もちろん、神様が願っておられるのはそういう事ではありません。

■ 自己卑下を捨てる

「あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使いの礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、かしらに堅く結びつくことをしなせん。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのよう、に「すがるな。味うな。さわるな」というような定めに縛られるのですか。そのようなものはすべて、用いば滅びるものについてであって、人間の成めと教えによるものです。そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。」(コロ 2:18~23)

もしあなたの生活の中で、失敗したと思う事やうまくいかないことがあるのならそれ神様が与えて下さったチャンスです。自己卑下したりすることは、かしらであるキリストに結びつくことではないからです。神様はそれぞれに計画を持っておられ自分の問題に向き合い、逃げずに立ち向かうことを選ぶことを願っておられます。それは、それを乗り越えた先には神様が用意して下さっている私達には想像もできないような素晴らしい祝福が用意されているからです。私たちが生きていく限り誰かに影響を与え、誰かの影響を受けています。だからこそ、イエス様と共に成長していくことを選びましょう。

■ さいごに

『わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』(マタイ 28:20)

イエス様は私たち一人一人に「世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」と約束してくださっています。私たちが誰かと共にいるものではありません。神様があなたと共におられるのです。

「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあつてその永遠の栄光の中に招き入れて下さった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全に、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」(Iペテロ 5:10)
私たちにこのような約束が与えられています。「しばらくの苦しみの後で・・・」と記されているように、私たちは葛藤しながら向き合っていく中で、それを乗り越えた後に「堅く立たせ、強くし、不動のもの」とされていきます。だからこそ以下の7つの事柄を信じて実践していきましょう！

神様の祝福を預かる者として。

- ①神の羊の群れを牧する
- ②群れの模範となる
- ③若い人達は長老に従う
- ④互いに謙遜を身につける
- ⑤神の力強い御手の下にへりくだる
- ⑥あなたがたの思い煩いを、一切神にゆだねる
- ⑦身を慎み、目を覚ます。堅く信仰に立って悪魔に立ち向かう

(要約者:日名 洋)

(2024年4月7日)